

2019年5月15日

トヨタ車体、「人とくるまのテクノロジー展 2019」に出展

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 取締役社長：増井 敬二）は、5月22日（水）から24日（金）までパシフィコ横浜（神奈川県横浜市）で開催される「人とくるまのテクノロジー展 2019」（主催：公益社団法人 自動車技術会）に出展し、福祉に関する製品と植物材料を中心にトヨタ車体の製品・技術を紹介します。また、7月17日（水）から名古屋で開催される同展示会*1にも出展します。

1. 出展内容

(1) サイドリフトアップチルトシート

福祉の分野では、ヴォクシーのウェルキャブ*2「サイドリフトアップチルトシート装着車」と装着されているシートのモデルを展示します。

「サイドリフトアップチルトシート装着車」は、全ての方に移動の自由と喜びを提供するため、一般家庭への福祉車両の普及をめざして開発しました。チルト機能の導入により乗降時にシート座面が前傾するため、お尻の位置を高く保ったまま地面に足を着くことができ、乗員のシートへの着座や立ち上がりをサポートします。（図1参照）

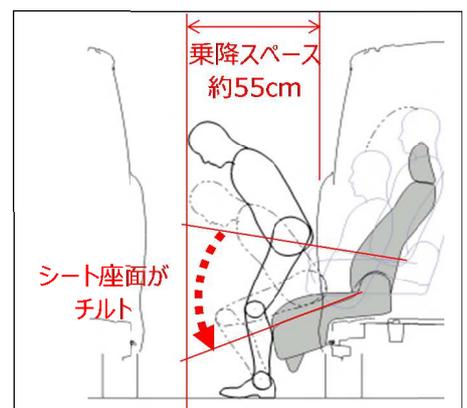
また、車外へのシートの張り出しを低減し、乗降に必要なスペースを約55cmに抑えたことにより、一般家庭の駐車場や外出先の狭いスペースで隣にクルマが停まっても乗降ができ、雨の日でもシートが濡れにくくなっています。

さらには、シートの下降とチルトを同時に作動することで、シートが回転して止まるまでの動きを従来品に比べ約10秒削減でき、よりスムーズな乗降ができるようになっています。

図1



ヴォクシー サイドリフトアップチルトシート装着車
（会場の展示車とは色が異なります）



世界のくらしに 笑顔届けたい



(2) 植物材料

環境の分野では、間伐材を利用した木粉、国産針葉樹合板、パルプ、セルロースナノファイバーの異なる4種類の植物材料の性能の紹介と、それらを成形加工した自動車部品などを展示します。木材は、軽量で強い素材であり、植物繊維の補強効果で樹脂との複合化により強度・耐熱性が向上し、補強材としてガラス繊維やタルクといったものに比べ軽く、軽量化にも寄与することが可能です。

スギ間伐材を強化繊維として使用し、熱可塑性樹脂*³と組み合わせた射出材料である「TABWD® (タブウッド)」は、これまでランドクルーザーのフォグランプブラケットやアルファードハイブリッド車などのエンジンルーム内のワイヤーハーネスプロテクター*⁴として採用されました。今回は、新たに19年2月に発売された海外向け新型ハイエースにも採用され、従来品に比べ約10%の軽量化を図ったバッテリーキャリア*⁵を初展示します。



TABWD®



ワイヤーハーネスプロテクター



バッテリーキャリア

- * 1 : 人とくるまのテクノロジー展 2019 名古屋 (会期 : 7 月 17 日 ~ 7 月 19 日、場所 : ポートメッセなごや) 出展小間番号 : 136
- * 2 : Welcab (ウェルキャブ) はトヨタ自動車の登録商標です
- * 3 : 適当な温度に加熱すると軟化し、冷却すると固化する変形しやすい性質の樹脂
- * 4 : 配線をまとめかつ保護する目的で取り付ける部品
- * 5 : 自動車のバッテリーを載せるトレイ

2. 出展場所

小間番号 258

トヨタ車体は、これからも世界中にのくらしに寄り添い、お客様の笑顔がひろがる“もっといいクルマづくり”に向け、製品や技術の研究、開発を進めてまいります。

以上

世界のくらしに 笑顔を届けたい

